

令和6年第2回 新得町議会 一般質問・答弁要旨

未来への5つの論点：観光税・鳥獣対策・人口減・地域活性・郷土史



作成：新得町議会傍聴記録より

新得町 2024年の重要アジェンダ

財源確保、産業保護、そしてアイデンティティの再定義。町政が直面する5つの分岐点。



経済戦略

宿泊税の導入（2026年目標）



環境保全

災害級の鳥獣被害対策



人口問題

静かなる有事
(出生率 1.20)



地域活性

くったり地区の未来



郷土史

誇りを醸成する場へ

01 経済戦略

宿泊税の導入：観光投資への財源確保

背景 (CONTEXT)

- 北海道全体で2026年までの導入を検討中
- 事例：くったり「アバント」(氷上サウナ)

経済効果 > 2,000万円



提案 (木戸議員)

道との同時導入を目指し、「観光振興基金」を創設せよ。
事業者への改修補助（最大75%）など柔軟な投資を可能に。



↓ STATUS: 前向きに検討



答弁 (浜田町長)

有効性を認識。俱知安・ニセコの先行事例を研究し、事業者と協議へ。「受益と負担」のバランスを慎重に検討する。

2026年
導入目標

鳥獣被害対策：「災害級」の危機

72万頭

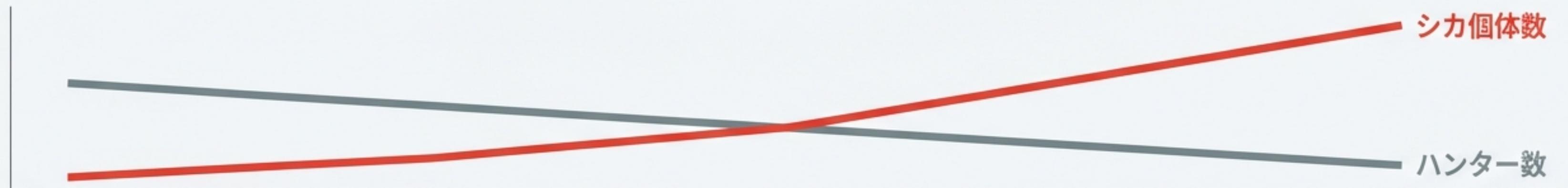
北海道のエゾシカ推定生息数

+2万頭/年

年間増加数

48億円

全道の農業被害額



現状・提案（福原議員）

現状：ビート・小麦への食害が深刻。ハンターの高齢化。
提案：驅除だけでなく、追い払い花火や春先のパトロール強化を。

回答（町長）

認識：まさに「災害級」の問題。
対策：自衛隊OBの雇用検討、狩猟免許取得費用の助成。

「消滅可能性」からの脱却と現実

1.20

新得町の合計特殊出生率（十勝平均 1.38 / 目標 1.80）

現状認識

2024年発表の「消滅可能性自治体」リストからは除外されたが、出生数は10年前の34人から17人へ半減。

質疑応答 (DISCUSSION)

➡ 青柳議員：リスト除外をどう評価するか？

2030年の目標（1.80）は達成可能か？

➡ 市長/事員：リスト除外は計算上の結果に過ぎない。

人口減少は「静かなる有事」。自治体単独では限界があるが、結婚・子育ての環境整備に注力する。

くったり地区の未来：格差是正へのアプローチ

PROPOSAL（ハード事業）

大澤議員の提案

- ◆ 大規模公園の整備
- ◆ 町営住宅の建設
- ◆ 排熱利用の通年農業ハウス

RESPONSE（ソフト支援）

町長の回答

- ◆ 行政は汗をかくが、主役は民間
- ◆ 既存産業（林業・水・畜産）を磨く
- ◆ リスクある新規事業より民間支援

「くったり地区を無視しているわけではない。地域の宝（水・木材）を磨き上げる。」

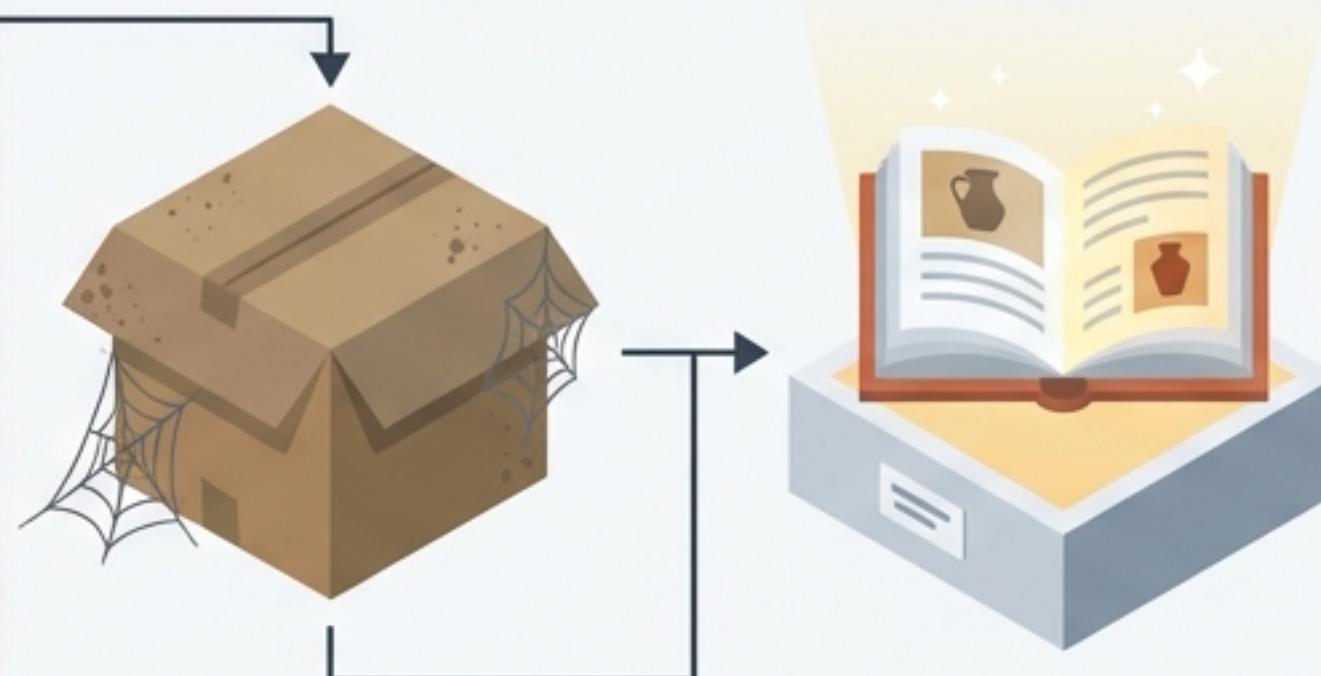
郷土史：誇りを醸成する場へ



現状：ふるさと館の資料は約2,000点だが、専門学芸員不在・ボランティア運営。

専門性の導入と移転

「旧サホロクリニック」などへの移転を検討し、プロの学芸員（外部人材）を登用すべき。子供たちが誇りを持てる博物館へ。



ソフト重視の改善

「現在の場所は最適ではない」と同意。しかし新築・移転コストは慎重に。まずは展示内容の工夫と外部知見の活用から。

町長の政治姿勢：理想と現実の狭間で

「行政は汗をかき、支援はする。
しかし、持続可能な成長には民間の覚悟が必要だ。」

浜田町長（2024年6月定例会）



役割分担
(Support vs Lead)

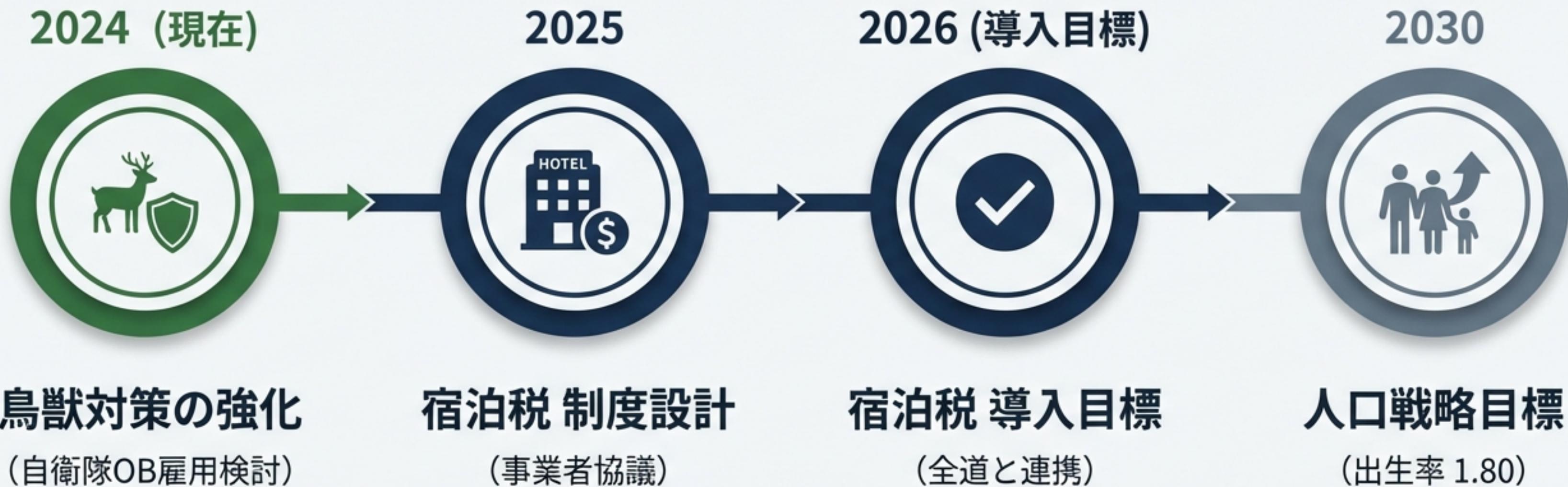


直視する現実
(Quiet Emergency)



既存資源の研磨
(Polish the Treasures)

今後のロードマップ (2024-2030)



新得町は今、財政基盤と地域の存続をかけた
重要な意思決定フェーズにある。